

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- セミナー及び懇親会報告1
- 2004年洋書輸入統計〔前編〕2
- 理事会報告・会員の動き5

セミナー及び懇親会報告

- 【題 目】今日の大学出版局の概観 (通訳付)
- 【講 師】Mr. Walter Lippincott, Director of Princeton University Press
- 【日 時】平成17年2月24日(木) 15:00～15:45、懇親会 16:15～18:00
- 【場 所】弘済会館(四ツ谷)
- 【参加人数】セミナー：37名、 懇親会：29名

UPSのGresham社長のご尽力により、来日予定であったMr. Lippincottに協会会員を相手として講演をしていただけることになり、上記に実現することができました。協会広報委員会としては、寒風の中受講に懇親会に多数お集まりいただきました皆様と共に両氏に改めて感謝する次第でございます。

講演は約45分ほどで終了し、何時になく多くの質問を受けましたが懇親会開始までに約30分ほど空いてしまい、セミナー懇親会を開催するのならセミナーの開始時間をもっと遅くし懇親会は早くとも6時くらいから開始した方が良いと言う意見と共に今後への反省点と致します。



講演は学術文献の出版活動におけるご多聞にもれず今後も「労多くして益少なし」が主題であったと思われますが、学術文献に携わる人々または我々の使命を改めて感じ取ることができたのではないかと思います。

講演内容(英文)は協会HPに掲載しております。

広報委員会委員長

雄松堂書店 鈴木 仁



2004年(平成16年)1月～12月の洋書輸入統計(前編)

荒 木 亮 一

財務省より「日本貿易統計：2004年(平成16年)1月～12月」(Provisional)が発表されたので、書籍、新聞、雑誌、絵画他(貿易統計第49類)および幾つかの関連商品の通関額を抽出し、輸入、輸出別の推移を表にまとめた。当該年は国公立大学の独立法人化、法科大学院の開校など話題も多く、「申し」でニンベンを付ければ「伸」となることから、天高く伸びる一年が期待された。ネット書店の問題なども頻繁に話題に上る昨今ではあり、著しい市場の変化を正確に把握するために輸入統計の数値が少しでも役に立ち、業界発展のヒントになれば幸いである。

2004年の円／ドルは円高であった。「税関長が毎週公示しているレートを、適用日数で加重平均したもの」をベースにした年平均値では、前年比約7%の円高である。書籍と雑誌、楽譜などの統計上の総輸入額は前年比約10%減であるが、円高を考慮すると約3%減に留まっている。大学の独法化やロースクールの開校が特におおきなプラス要因にはなっていなかったようであるが、マーケットには安定感があり、新しい「西どし」に期待したい。

1) 主要品目の輸入通関額について：

表1-a 2003/2004年の輸入通関額(単位 百万円)

分類	品目	03年1月～12月 輸入価格	04年1月～12月 輸入価格	前年比	構成比
書籍 および それに 類する もの	単一シートのもの	212	284	133.0%	0.5%
	辞典および事典	292	316	105.7%	0.6%
	その他のもの(書籍)	36,673	32,730	89.2%	61.4%
	幼児用絵本	3,401	3,756	110.4%	7.0%
	小計(1)	40,585	37,086	91.4%	69.6%
	楽譜	756	693	91.7%	1.3%
	地図／海図／地球儀	819	928	113.3%	1.7%
	小計(2)	1,575	1,621	102.9%	3.0%
新聞・ 雑誌そ の他の 定期刊 行物	一週に4回以上 発行するもの	64	62	96.9%	0.1%
	雑誌その他の定期刊行物	16,692	14,513	86.9%	27.2%
	小計(3)	16,756	14,575	86.0%	27.4%
合計(1)+(3)		57,341	51,661	90.1%	96.0%
合計(1)+(2)+(3)		58,916	53,282	90.4%	100.0%

<考察> “表1-a”は洋書マーケットを構成する主な商品をまとめた表である。

(1) ☆“書籍およびそれに類するもの”の項目のなかで、興味の焦点は構成比の大きい「その他のもの(書籍)」である。前年比約11%の減少、為替変動率を勘案しても約4.5%の減少である。最近10年間の輸入額の推移を、原価上昇年平均4%(為替の変動率“0”)の仮定に立ってみると、推定成長率は“(－)4%”となり(1995年を100として2004年は指数約134)、依然として外圧、重圧がつづいていることを示唆しているようである。

☆ 増加傾向にある「単一シートのもの」は、2004年の輸入額が前年比で34%の増加である。2001年からの記録を繰ってみると2001年は前年比で33.6%の増加、2002年には一旦前年の約半分に落ち込んだが、2003年から再び増加に転じて2004年は過去最高だった2001年の輸入額を4.8%上回った。原産地別構成比は次のとおりである。即ち、米(36.8%)、中国(32.6%)、韓国(6.5%)、タイ(5%)、独(3.3%)、イタリア(2.3%)、スペイン(1.8%)、アイルランド(1.5%)の順となっていて、8カ国の合計は(89.8%)である。含まれる商品として、美術書や絵本などが考えられるが、前年比でみる米国の70.0%増、特に中国からの輸入増加率38.1%には驚かされる。

☆ つぎに「辞典及び事典」を見ると5.7%の増加である。過去10年のなかで最も輸入額が高かったのは1996年で¥742百万であった。円／ドルの平均相場が¥109.86と現在とさほど変わらない。1998年以降は¥300百万の前後で推移している。因に、原産地別に見ると、英国(56.2%)、香港(16.7%)、シンガポール(10.8%)、米国(8.3%)、韓国(2.9%)、中国(1.9%)、独(1.4%)の順で、7カ国の合計が(98.2%)である。前年の輸入額との比較で、特に増減が顕著だったのは英国が約3倍になり、シンガポールが約1.5倍、一方中国が約5分の1に落ち込んだ。近年はかなり優秀な電子辞書の普及が顕著だが、辞書や事典のページを開く楽しさ、開いた時一度に視野に入る情報の豊富さと広さからその効用が廃れることはないかと確信している。

☆ 最後に、「幼児用の絵本」は国別に見ると中国、香港からの輸入が多く、それぞれ47.0%、31.5%、次点が米国で6.5%、4位がシンガポールの4.4%である。前年比で2002～2003年がそれぞれ29.0%、8.2%の増加、本レポート期が10.4%と順調に推移している。家庭における子供の英語教育に対する関心が年ごとに高まっているのであろう。

◎ 結論として、輸入の合計額は1995年を指数100としてみると（表2参照）、当レポート年は151と10年間に51%の伸び。IT産業の発展は目ざましいものがあるが、人間が愛する情報と教育の媒体である印刷物、即ち、洋書は、マーケットがアップ。アンド・ダウンしながらも社会におけるその重要な役目を十分に果たしているのである。

(2)“雑誌・新聞”は、前年比13.0%の減少である。貿易統計の輸入額 vs 輸入冊数の数値では、一冊あたりの原価の上昇率が2003年の14.0%、2004年の9.0%を示している。また、輸入冊数は前年比で2003年が8.0%減、2004年が20.0%減となっている。数値上でもジャーナルの高額化が進んでいることが明白になった。購読者はもとより取り扱い業者もジャーナルの高額化には対応に苦慮されているようで、更にハード・コピーの売り上げ減少が続けば、今後値上げ傾向に拍車がかかるのではないかと危惧される。構成比でみると、米国が(49.6%)、英(29.0%)、独(4.3%)、オランダ(3.9%)、シンガポール(2.5%)、ブラジル(1.9%)、仏(1.8%)、イタリア(1.7%)、韓国(1.6%)、中国(0.9%)、香港(0.8%)、スイス(0.6%)、オーストリア(0.58%)である。ブラジルが6位につけている。[参照：主要10カ国からの2004年通関額（表3-a）]

(3)“楽譜、地球儀など”は、楽譜の輸入額が8.2%の減少である。記録を遡ってみると、10年まえの1996年の輸入額が¥9億3800万で1990年代の最高であった。1997～1998年が¥8億台となり、1999年以降は¥6～7億台で推移している。全てがグローバル化してきたので、地図・海図・地球儀などの需要は順調に伸びてきたのであろう。特に2004年には「地球儀」の販売に力を入れた書店もあったようで13.3%の大幅ジャンプであった。

表1-b 2003年：2004年品目別輸入量（総重量[KG]と総冊数）

品目 (書籍)	輸入された「1KG当たりの平均冊数」				
	'03総冊数	'03総重量KG	平均冊数 ／KG	'04総冊数	'04総重量 ／KG
単一シートのもの	～	175,403	～	～	273,135
辞典および事典	421,306	262,752	1.6	171,653	144,315
書籍など	～	12,607,342	～	～	12,821,931
幼児用絵本	12,861,429	2,467,159	5.2	15,955,678	3,309,276
小計1(辞典+絵本)	13,273,735	2,729,911	4.9	16,127,331	3,453,591
(新聞・雑誌)					
一週に4回以上 発行するもの	500,903	41,963	11.9	459,801	38,533
新聞・雑誌その 他の定期刊行物	22,451,128	4,944,534	4.5	17,974,754	4,600,772
小計2	22,952,031	4,986,497	4.6	18,434,555	4,639,305
合計(1+2)	36,225,766	7,716,408	4.7	34,561,886	8,092,896

<参考>「単一シートのもの」および「書籍など」の冊数が発表されないが、下記のとおり「重量」は前年より増加している。「単一シート」の前年比増加率は55.7%で、輸入額の増加率34.0%を21.7%上回っている。ポリュームのある美術書などが多かったのであろう。「書籍など」は1.7%増である「辞典及び事典」は冊数、重量ともに前年より低い、輸入額の増加からみてかなり大きい商品が輸入されたことは明らかだ。「幼児用の絵本」は輸入額が10.4%増、総冊数24.1%増、総重量34.1%増であり伸びを示している。「一週に4回以上発行するもの」は、輸入額3.1%減、総冊数8.2%減、総重量8.2%減で、価格の上昇が伺える。また、「新聞・雑誌」も輸入額13.1%減、総冊数20.0%減、総重量7.0%減である。

表1-c 2003年：2004年品目別輸入量（総冊数と平均単価／冊）

品目 (書籍)	輸入された「総冊数と平均単価」				
	'03総冊数	'04総冊数	前年比	'03年 平均単価	'04年 平均単価
単一シートのもの	～	～	～	～	～
辞典および事典	412,306	171,653	42%	¥725	¥1,841
書籍など	～	～	～	～	～
幼児用絵本	12,861,429	15,955,678	124%	¥264	¥235
小計	13,273,735	16,127,331	121%	¥279	¥252
(新聞・雑誌)					
一週に4回以上 発行するもの	500,903	459,801	92%	¥128	¥135
新聞・雑誌その 他の定期刊行物	22,451,128	17,974,754	80%	¥743	¥807
小計	22,952,031	18,434,555	80%	¥730	¥791
合計	36,225,766	34,561,886	95%	¥565	¥540

＜参考＞「辞典及び事典」の平均単価（輸入額÷総冊数＝平均単価）の推移をみると、2001年が¥533（輸入額¥283百万）、2002年は¥1,161（同上、333）、2003年¥725（同上、299）、2004年¥1,841（同上、316）である。輸入額の少ない年に単価が低く、多い年には単価が高くなっていることが分かる。「幼児用絵本」の平均単価は2001年から2004年まで、¥277、¥269、¥264、¥235とほぼ安定している。そのなかで、2004年は輸入額が10％アップ、冊数24％アップ、重量34％アップ、単価のみが11％ダウンである。米英からの輸入が減り、シンガポール、中国、タイからの輸入が増えたためであると考えられる。「一週に4回以上発行するもの」は、2001年以降の推移は¥139、¥140、¥128、¥135と比較的安定している。「新聞・雑誌その他の定期刊行物」の単価については、2001年から、¥1,092、¥652、¥743、2004年は¥807と変動した。輸入額の場合は、米21％ダウン、英横ばい、オランダ30％ダウン、中国と香港も大幅ダウンとなった。

2. 最近10年間の推移

表2 最近10年間の輸入通関額一覧表（単位 百万円）

暦年	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞その他の定期刊行物			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1995	24,520	102%	100	17,418	109%	100	41,938	105%	100
1996	29,399	120%	120	19,844	114%	114	49,243	117%	117
1997	35,453	121%	145	18,220	92%	105	53,673	109%	128
1998	35,253	99%	144	19,056	105%	109	54,309	101%	129
1999	35,151	100%	143	18,029	95%	104	53,180	98%	127
2000	33,190	94%	135	16,542	92%	95	49,732	94%	119
2001	39,244	118%	160	19,125	116%	110	58,369	117%	139
2002	41,243	105%	168	15,892	83%	91	57,135	98%	136
2003	40,585	98%	166	16,756	105%	96	57,341	100%	137
2004	37,086	91%	151	14,575	87%	84	51,661	90%	123

＜考察＞原価の平均上昇率を「4％／年」の仮定で計算すると、2004年総輸入額の増加率は書籍が（＋）6.3％、一方、雑誌は（－）41.2％、合計額では（－）10.0％である。しかし、単純に1995年と2004年の円／米ドルの為替相場をベースに考えると、若干の成長、と言えるのではないだろうか。因に、1995年円／米ドルの年平均相場は¥95.01、対して2004

年が¥108.27であった。

3. 主要10ヶ国からの2004年輸入通関額

表3-a 主要10ヶ国からの輸入通関額と前年比・構成比

国名	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞その他の定期刊行物			計		
	輸入額	前年比	構成比	輸入額	前年比	構成比	輸入額	前年比	構成比
米	12,778	97%	34%	7,223	79%	50%	20,001	90%	39%
英	7,452	102%	20%	4,231	100%	29%	11,683	101%	23%
香港	3,553	80%	10%	112	51%	1%	3,665	78%	7%
中国	3,491	116%	9%	130	77%	1%	3,621	114%	7%
シンガポール	2,300	43%	6%	364	110%	2%	2,664	47%	5%
独	2,019	97%	5%	632	110%	4%	2,651	99%	5%
オランダ	823	75%	2%	570	70%	4%	1,393	73%	3%
韓国	1,085	253%	3%	239	114%	2%	1,324	207%	3%
仏	1,038	99%	3%	256	116%	2%	1,294	102%	3%
イタリア	280	104%	1%	246	97%	2%	526	101%	1%
小計	34,819	91%	94%	14,003	87%	96%	48,822	90%	95%
その他の国	2,267	95%	6%	572	96%	4%	2,839	95%	5%
計	37,086	91%	100%	14,575	87%	100%	51,661	90%	100%

表3-b 主要輸入元一覧表

品名	米	英	EURO圏	東アジア	東南アジア	その他の国	合計
書籍	12.8	7.4	4.7	8.4	3.0	0.8	37.1
雑誌	7.2	4.2	1.8	0.5	0.4	0.5	14.6
合計	20	11.6	6.5	8.9	3.4	1.3	51.7
構成比	39%	22%	13%	17%	7%	3%	100%
構成比30	39%	20%	12%	15%	11%	2%	100%

註1: “EURO圏”は12ヶ国を含む。

註2: “東アジア”は中国、香港、台湾、韓国、北朝鮮を、“東南アジア”は9ヶ国を含む。

＜考察＞続いていたシンガポールの躍進が停滞している。偶然にも輸入価格全体の減少額にマッチするほど大幅な落ち込みで、その原因を知っておく必要がありそうである。米国、オランダのジャーナルが20％～30％ほど減少しているのは、オンライン・サービスの普及と値上がり幅のためであろう。中国、韓国、マレーシアの伸びが目につく。再びイタリアが10位、タイが11位に入れ代わった。

備考：税関のいう「第49類」とは【印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物（単一シートのものであるかないかを問わない。）】。「その他のもの」は【書籍類】で、単一シートと辞典以外の印刷物である。（詳細は後編に掲載予定）

（後編に続く）

理事会報告

日時：平成17年2月23日（水）

1. 委員会報告

(1) 総務委員会

- ・ロゴ選定 総務委員会で最終的に2点に絞り込んだ。理事会で討議の結果、ユサコ㈱の応募作品を採用した。
- ・総会 選挙管理委員長を㈱極東書店、菅野社長に依頼した。
- ・来期予算策定 1回目のドラフト案を討議。さらに詳細を詰めて3月の理事会で最終案として討議する。

(2) 広報委員会

- ・セミナー 2月24日のセミナーは、18社、37名が参加。懇親会にも29名参加予定。4月も別のセミナーを企画中。

(3) ダイレクトリー・HP委員会

- ・ダイレクトリー（冊子体） 5月発行に向けて準備を進めている。広告収入は昨年実績を確保したい。また昨年版から始めた「うちの会社」を広めたい。

- ・委員会全般 賀川理事の進める「若手の会」でもホームページに関する意見が出ているようだが、そういった若い力を活用したい。

(4) 文化厚生委員会

- ・同好会 つり同好会の参加社数が少ないので再考したい。若手の集まれる新しい同好会も検討中

(5) 事業委員会

- ・今年のT I B Fでのパーゲン用ブース数は昨年並との打診が来ている。

2. その他

- ・新入会員の承認 ㈱トッパントラベルサービスから出されていた入会申込みを承認した。

ロ ゴ 決 定

協会ロゴ募集には多数ご応募いただき、ありがとうございました。

どの作品も力作で選考も難航いたしました。最終決定いたしました。ユサコ㈱の応募作品です。応募作品はホームページ上で公開する予定です。



会 員 の 動 き

住所変更

株式会社ピアソン・エデュケーション
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-44-5
.....

新入会員のご紹介

3月1日付で入会されました。よろしく御願いたします。

株式会社トッパントラベルサービス
代表取締役 フィリップ P. グセル氏

ブラックウェル 経営学百科事典 第2版

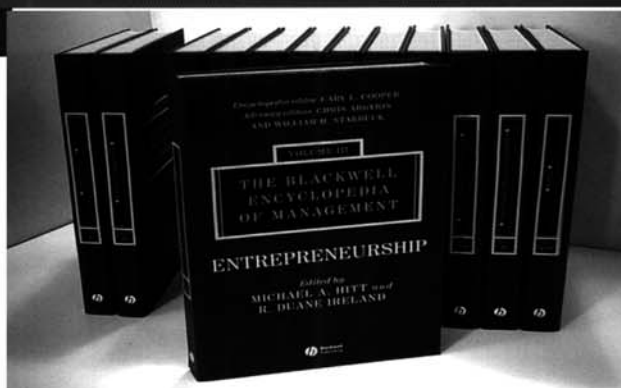
7年振りの改訂版・2005年1月入荷・在庫
全13巻（本体12巻+索引）



BLACKWELL ENCYCLOPEDIA OF MANAGEMENT

Editor in Chief: **Cary L. Cooper**
Lancaster University School of Management
Advisory Editors:
Chris Argyris & William H. Starbuck
Harvard University, New York University

予約特価 ¥316,554 税込 分売不可
(本体¥301,480) (特価期限2005/6/30日迄)
以降: ¥381,780 税込 (本体¥363,600)
2005年1月入荷
4224頁 ISBN 0-631-23317-2



経営学レファレンスの決定版として是非お勧め致します

- ☆ グローバル化の時代において著しい発展を続けている経営学の最新成果を取り入れ世界の最も著名な専門家や研究者1500名の協力の下に結成された国際チームによって編集・執筆された事典です。
- ☆ 改訂・増補された約6500の項目は、新たに追加されたEntrepreneurshipの巻を含め全体で12の分野で構成され、一分野毎に各々一巻ずつ充てられています。
- ☆ 各項目毎に掲載されている参考文献目録は、適切で幅広く、国際的で最先端かつグローバルな業績を反映させ、大幅に増補されました。
- ☆ 巻中の索引と各事典間の索引はクロス・レファレンスとして、専門家の方々には勿論、学生や一般の方々にも充分配慮され、より柔軟で使い易くなりました。

◆第2版の構成

- Volume 1: Accounting [会計学]
- Volume 2: Business Ethics [企業倫理]
- Volume 3: Entrepreneurship [起業家精神]
- Volume 4: Finance [財務]
- Volume 5: Human Resource Management [人材管理]
- Volume 6: International Management [国際経営]
- Volume 7: Management Information Systems [経営情報システム]
- Volume 8: Managerial Economics [経営経済学]
- Volume 9: Marketing [マーケティング]
- Volume 10: Operations Management [オペレーション管理]
- Volume 11: Organizational Behavior [組織行動]
- Volume 12: Strategic Management [企業戦略]
- Volume 13: Index [総索引]

 **Blackwell
Publishing**

日本総代理店 **United Publishers Services Limited**

〒140-0002 東京都品川区東品川1-32-5